

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 1年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	思いを込めて明るい声で歌おう(7)				系単元性の	小学校6年生では新型コロナウイルス感染症対策として歌唱に制限があり、通常の活動は行えていない。中学校では変声期にあたり、小学5年生までに歌っていた声に変化してくることもあり、歌唱活動に配慮が必要である。音楽活動への意欲は高いので、発声の仕方や息の使い方に徐々に慣れ、合唱につなげていく。		
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 思いを込めて明るい声で歌おう</p> <p>①小笠原中学校校歌の歴史について知り、のびのびとした発声で歌う。(小笠原学習)</p> <p>2 作者のメッセージを受け止め、思いを込めて合唱しよう</p> <p>①歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫しながら歌う。</p> <p>②創意工夫を生かした音楽表現で歌うために必要な発声や言葉の発音、呼吸法などの技術を身に付ける。</p> <p>△(主体的△対話的で深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)曲想と歌詞の内容との関わりについて理解し関心をもつ。</p> <p>△(対話的)パート練習の進め方について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)学習を通して身につけたと思う知識や技能、表現の工夫などをワークシートに記入する。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①初めて3部合唱に取り組む際、パート練習がうまく進まないことがある。</p> <p>②少人数であることもあり、声量が出ず自分たちの声を聞き取りにくいことがある。</p>			
						<p>工夫・手立て</p> <p>①パート練習の方法について、リーダーが話し合い、進め方を生徒があらかじめ把握できるようにする。練習で着目すべき点についてキーワードを提示し、各授業で1つ1つのキーワードを達成できているかリーダーがチェックする。練習の様子を適宜録音するなどして、重点的に行っている練習が音に反映できているか自己評価させる。</p> <p>②口の開け方や息の使い方を集団で揃えることで、演奏のまとまりを作る。発達段階に応じて声量は上がってくることを踏まえ、声質や歌い方に着目して取り組ませる。</p>			
評価規準									
知識・技能	創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付け、歌唱で表している。				思考・表現判断	音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。		主体的に学習に取り組む態度	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>					<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>			<p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>
月	単元名	全校吹奏楽:基本奏法と楽曲練習(7)				系単元性の	小笠原小学校にて、6年生時に打楽器を中心とした合奏を経験している。新型コロナウイルス感染症対策として管楽器(リコーダー)演奏は制限があったものの、学年でのアンサンブルを多く経験したことで、楽器に興味関心が高くなり、中学校での吹奏楽を楽しみにしている生徒が多い。		
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 小笠原中学校全校吹奏楽について</p> <p>①小笠原中学校全校吹奏楽の歴史及び各楽器の名前と音色を知る(小笠原学習)</p> <p>②2年生による楽器紹介と楽器体験(楽器決めアンケート実施)</p> <p>2 パート練習で基本的な奏法を習得する</p> <p>①上級生とのパート練習で、楽器の持ち方、各部の名称、組み立て方、片付け方、水抜きの方法、マウスピースやリードの使い方を習得する</p> <p>②音の出し方、アンブシュア、演奏姿勢を学ぶ</p> <p>③簡単な運指を学び、ロングトーンの練習をする</p> <p>3 楽譜の読み方を知る</p> <p>ト音記号、ハ音記号、臨時記号の読み方練習(ドリル学習)及び、各楽器の運指表の見方を学ぶ</p> <p>△(主体的△対話的で深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)3年間取り組む楽器を自ら選び、演奏に対する積極性を高める。</p> <p>△(対話的)異学年交流を通して、生徒の対話を促すことで楽器に対する意欲を高め理解を深める</p> <p>□(深い学び)読譜練習を同時に行い、知識と技能が一体化した学びを促すことで深い学びにつなげる</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①初回の授業で音を出せたという経験が今後の授業への意欲付けになる。音が出ない場合は次に不安を残すため、最初の1時間で達成感を得られるようなサポートが必要である。</p> <p>②楽器の組み立て方や用具の使い方の指導が必要である。誤って破損してしまうと、楽器を触ることに對して躊躇してしまうため、丁寧に指導する必要がある。</p>			
						<p>工夫・手立て</p> <p>①管楽器の場合は、小学校で既習しているソプラノリコーダーの吹き方指導と繋げて、生徒が吹き方をイメージしやすい指導を行う。</p> <p>②練習場所や楽器を置く場所、移動等を考慮して、セッティング方法を提示する。準備と片付けの時間は多めに設定し、楽器の扱いに関する指導時間を増やす。</p>			
評価規準									
知識・技能	創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使用などの技能を身に付け、楽器で表している。				思考・表現判断	リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。		主体的に学習に取り組む態度	曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。
	<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p>					<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p>			<p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 1年 年間指導計画			
小学校				中学校						
1	2	3	4	5	6	1				2
月	単元名	「春」-第1楽章-(1)				系単元性の	小学校6年生時に行ったピアノ鑑賞教室にてチェロの演奏を聴き、弦楽器の響きに親しんだ。中学校で吹奏楽の楽器を決めるにあたり、管楽器とコントラバスについて学習したことから、様々な楽器の特性に興味関心をもつ生徒が多い。			
5	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 バロック時代に使われていた楽器を知る</p> <p>①弦楽器の名称と音域、合奏における役割を学ぶ。</p> <p>②チェンバロの構造と音色を知る。</p> <p>2 楽曲の形式について知る</p> <p>①各部に付けられたソネットと場面ごとの流れを知る。</p> <p>②協奏曲とリトルネッロ形式について学ぶ。</p> <p>3 作曲家ヴィヴァルディと時代背景を知る</p> <p>①バロック時代の作曲家が置かれた状況や、活躍した当時の様子を紹介し、同時代のバッハやヘンデルについても触れる。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)音楽の時代背景に関心をもたせることから学びに入る。</p> <p>△(対話的)</p> <p>□(深い学び)吹奏楽でも使われているコントラバスや、鑑賞教室で見たチェロの演奏と関連付けて、バロック時代の演奏形式との違いを意識させる。</p>						<p>①楽器個々の音色の違いを理解していないと、形式が変化することをイメージしにくい。</p> <p>②1曲の中にソネットが分かれているため、どこで切り替わるか分からないと曲の変化に気づきにくい。</p>			
							<p>①それぞれの楽器の音域や役割について十分理解してから鑑賞活動を行う。</p> <p>②ソネットの内容がどのように移り変わっていくかあらかじめ理解するとともに、変化する場面で掲示物を使うなど視覚的にも理解できるようにする。</p>			
評価規準										
知識・技能		曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。			思考・表現判断		音色、リズム、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。		主体的に学習に取り組む態度	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
		・ワークシート ・定期考査					・ワークシート ・定期考査			・ワークシート ・定期考査 ・観察
月	単元名	全校吹奏楽:基本奏法と楽曲練習(10)				系単元性の	1学期に担当楽器を決め、基本的な奏法について学習した。今学期は、音の出し方や楽器の扱い方など、楽曲練習と並行して安定してできるようになるまで練習を続ける。読譜力については引き続き練習を行い、進級までに読み方に慣れるようにしていく。			
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 パート別練習</p> <p>①発表会に向けた楽曲の運びとリズム練習。</p> <p>2 グループ練習</p> <p>①楽曲の中で同じ役割を担うパート同士で集まって練習する。</p> <p>3 全体合奏(正しいリズムで器楽演奏する)</p> <p>① 全校で合奏し、本番に向けて準備する。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)楽曲練習を自主的に進め、分からない箇所を見つけてグループ練習で解決する。</p> <p>△(対話的)グループ練習や合奏などを生徒主体の活動にすることで対話を一層促進し、理解を深める。</p> <p>□(深い学び)合奏全体の響きの中で、自己の役割を意識して演奏する。</p>						<p>①運指やリズムなどの疑問点を自分から相談できず、練習が進まない場合がある。</p> <p>②音を出す時間が少なくなり、1時間の授業で成果を感じられないことがある。</p>			
							<p>①合奏に必要な知識として、楽曲のリズムと運指についてあらかじめグループ活動で理解できるようにする。できるだけ音に出して確認する練習内容とする。</p> <p>②準備や片付けを含めたパート練習の流れをスムーズに行い、グループ練習の進め方を定着させることで音出しの時間を増やしていく。</p>			
評価規準										
知識・技能		創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。			思考・表現判断		リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。		主体的に学習に取り組む態度	曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
		・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査					・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査			・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 1年 年間指導計画			
小学校				中学校						
1	2	3	4	5	6	1				2
月	単元名	「赤とんぼ」(2)				系単元性の	1学期の歌唱活動は、呼吸法や発声に着目して行った。この単元では、1学期歌唱目標の「思いを込めて明るい声で歌う」と関連付け、歌詞の内容や強弱記号などの表現力を中心に学習を進める。			
9	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 歌詞の内容に注目して表現を工夫する</p> <p>①作詞者の思いを理解し、情感を感じ取りながら表現を工夫して歌う。</p> <p>2 音楽の構造に注目して歌う</p> <p>①日本語の歌詞と旋律の動きとの関わりを理解して歌う。</p> <p>②強弱記号の意味を理解して、旋律ごとに変化する表現方法を工夫して歌う。</p> <p>(○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)曲の背景や作詞者の思いを理解して歌う。</p> <p>△(対話的)音の跳躍など、歌唱する際に気を付けるべきポイントを話し合う。</p> <p>□(深い学び)歌詞の移り変わりによって、テンポを変化させるなど表現を工夫する。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①音程跳躍が大きいので、発声や歌い方に注意する必要がある。</p> <p>②強弱記号の違いを演奏で表現することが難しい。</p>			
							<p>工夫・手立て</p> <p>①発声練習を行うことで声質を揃える。発音によっても声の出方が変わるため、喉の使い方や歌う姿勢についても指導する。</p> <p>②強弱記号で特に変化の大きい部分を取り出して練習してから全体の強弱を付ける。</p>			
評価規準										
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>			思考・表現判断		<p>「赤とんぼ」の音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>
月	単元名	「魔王」(1)				系単元性の	歌曲の鑑賞は今回が初めてとなる。本単元では芸術歌曲の独唱を鑑賞し、楽曲に関する学習活動だけでなく、歌唱の歌い方に関する指導にもつなげていく。			
11	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 歌詞の内容を理解する</p> <p>①日本語版の演奏を聴き、登場人物と内容を理解する。</p> <p>②芸術歌曲リートについて学ぶ。</p> <p>2 曲想と音楽の構造との関わりを理解する</p> <p>①伴奏形の変化と歌詞の内容との関わりについて考える。</p> <p>②登場人物の心情と音色の変化について考える。</p> <p>3 作曲者シューベルトと時代背景を知る</p> <p>①シューベルトの生家や遺品を紹介し、ウィーンで活躍した作曲者について知る。</p> <p>(○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)作曲者や音楽の時代背景に関心をもち、そこから学びに入る。</p> <p>△(対話的)歌詞の内容を生かすための作曲上の工夫について話し合う。</p> <p>□(深い学び)歌い手が登場人物によって歌い方を変えていることに着目し、歌唱活動に生かす。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①全ての登場人物を1人で歌っているため、歌詞の進行を登場人物ごとに整理する必要がある。</p> <p>②原語はドイツ語であるが、初めてドイツ語の曲を聴く生徒が大半であるため、言語の説明が必要である。</p>			
							<p>工夫・手立て</p> <p>①会話の部分では誰が話した言葉なのか、全体で整理してから鑑賞活動を行う。</p> <p>②最初は日本語歌詞を用いて鑑賞し、最後にドイツ語による演奏を聴くことで内容理解を促す。歌い手や言語の違いによって表現がどう変化するか対比させる。</p>			
評価規準										
知識・技能		<p>曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>・ワークシート ・定期考査</p>			思考・表現判断		<p>音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・ワークシート ・定期考査</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ワークシート ・定期考査 ・観察</p>

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 1年 年間指導計画		
小学校				中学校					
1	2	3	4	5	6	1			
月	単元名	パートの役割を感じ取って合唱しよう(7)				系単元性の	1学期に引き続き3部合唱に取り組み、演奏発表を行う。今学期はパート練習方法の定着を図り、リーダーを中心に合唱をまとめる方法を学ぶことで、次年度の歌唱活動につなげていく。		
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>1 フレーズや旋律の動き、強弱を生かした表現を考える。 ①曲想や歌詞の内容を活かして音楽表現を工夫する。 2 パートごとのまとまりを作って合唱する ①パートの役割を生かした表現方法を話し合う。 ②全体の響きの中で、パートごとの強弱表現を考えて歌う。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉 ○(主体的)パート練習に積極的に関わり、より良い演奏に近付けるにはどのような練習が必要か考える。 △(対話的)パート練習の進め方について意見を出し合う。 □(深い学び)全体の響きを客観的に聴き、より良い演奏にするために必要な課題を見出して表現に生かす。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①パート内の話し合い方法に工夫が必要である。 ②生徒が主体的に活動を進めるにあたり、どのように動けば良いかリーダーが考えておく必要がある。</p>		
							<p>工夫・手立て</p> <p>①話し合いの進め方について、ワークシートに記入するなどして生徒が話し合いのポイントを迷うことなく進められるようにする。 ②合唱全体をまとめる方法について、あらかじめリーダーが話し合って進め方を工夫する。</p>		
	評価規準								
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>		<p>思考・表現判断</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>		<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>合唱表現の多様さに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>			
月	単元名	全校吹奏楽:基礎合奏、楽曲練習(5)				系単元性の	2学期に行った発表の成果を生かし、楽器の基礎技能をさらに高める。音階練習を各楽器で行った後、全体合奏で音程や速度の合わせ方について学ぶ。自己の1年間を振り返り、初心者指導に必要な項目について考え、次年度に向けて後輩指導の方法について理解を深める。		
1 ・ 2 ・ 3	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>1 音階練習 ①各楽器の運指でB-durの音階練習をする。 2 基礎合奏 ①バランス、スケール、ハーモニーの3種類を各パートで練習する。 ②音程の合わせ方(チューナー)を学ぶ。 ③全体でテンポを合わせて基礎合奏をする。 3 楽曲練習 ①2学期の発表で行った楽曲を改めて合奏する。 ②基礎合奏の方法を活かして、テンポや音程を合わせながら合奏する。 〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉 ○(主体的)吹奏楽の基本音階であるB-durの運指を理解して覚えながら演奏する。 △(対話的)正しい運指やハーモニーの合わせ方について対話しながら理解を深める。 □(深い学び)音程やテンポを合わせるために、チューナーやメトロノーム、合奏用キーボードを用いてパートなどのグループで合わせる。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①各楽器のB-dur音階で調号が異なるため、#やbを見落としてしまい、運指を間違えて覚えてしまうことがある。 ②機械の使い方はすぐに覚えることができるが、音程をどのようにして変えてチューナーに合わせていくか、慣れるまで時間が掛かる。</p>		
							<p>工夫・手立て</p> <p>①個人実技テストを行うなどして、正しい読譜と運指ができていないか教師が直接確認し、誤りがある場合は早い段階で修正する。 ②口の筋肉の使い方や息のスピード、姿勢などで音程が変わることを指導する。また、ロングトーンで1音を揺れないで吹けるように練習する時間を設ける。</p>		
	評価規準								
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>		<p>思考・表現判断</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>		<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>全校吹奏楽の活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>			

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 1年 年間指導計画					
小学校				中学校								
1	2	3	4	5	6	1				2	3	
月	単元名	卒業式歌「あおぞらに」(4)				系単元性の	卒業式歌「蛍の光」は小笠原小学校でも歌われており、小笠原村でもよく歌われている。「あおぞらに」は元小笠原中学校校長および小笠原村教育長であった伊藤直樹先生の曲で、小笠原中学校の卒業式で歌い継がれてきた歌である。進級前最後の歌唱単元として、伸び伸びとした響きのある歌声で締めくりたい。					
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫					
1	2	<p>「あおぞらに」(2部合唱)(小笠原学習)</p> <p>1 歌詞の内容や曲想に関心をもつ</p> <p>①作曲者と小笠原中学校について紹介する。</p> <p>②小笠原中学校生徒の卒業式で歌い継がれている曲であることを知り、歌詞の内容を理解する。</p> <p>2 音色、リズム、音程、構成に注意して歌唱する</p> <p>①4部合唱を2部合唱等に分けて正しい音程とリズムで歌う。</p> <p>3 曲にふさわしい歌唱表現を考える</p> <p>①強弱表現を入れて歌唱する。</p> <p>「蛍の光」(斉唱)</p> <p>1 旋律とリズムを正しく知覚し、歌唱表現を工夫する</p> <p>①歌詞と旋律の関係を感じ取り、強弱や響きの変化を歌唱で表現する。</p> <p>(○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)曲の背景や作詞・作曲者の思いを理解して歌う。</p> <p>△(対話的)音の跳躍など、歌唱する際に気を付けるべきポイントをパート等で話し合う。</p> <p>□(深い学び)歌詞の内容と曲想の変化について、作曲者がなぜこのように作曲したのかについて考える。</p>				系単元性の	<p>「わかる」から「できる」授業への工夫</p> <p>①「蛍の光」の歌詞について、言葉の意味や抑揚を理解していないと歌唱でつまずきやすい。</p> <p>②「あおぞらに」のリズムが旋律によって異なり、似ている箇所間違えやすい。</p>					
2	3	<p>①言葉の意味や歌詞の大意を理解した上で、旋律との関わりを意識しながら歌唱する。</p> <p>②歌詞によって似ているリズムを取り出して焦点化させる。</p>				系単元性の	<p>①言葉の意味や歌詞の大意を理解した上で、旋律との関わりを意識しながら歌唱する。</p> <p>②歌詞によって似ているリズムを取り出して焦点化させる。</p>					
評価規準												
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>			思考・表現判断		<p>音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>		主体的に学習に取り組む態度		<p>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>	
月	単元名	日本の民謡(1)				系単元性の	小学校時に、運動会で小笠原南洋踊りやソーラン節、カカや小笠原太鼓の演奏を経験してきているため、郷土の音楽には比較的身近に接している。地域のサークル活動でフラやウクレレを体験している生徒もあり、これらの背景を東京及び日本各地の郷土音楽に関する学習につなげていく。					
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫					
1	2	<p>1 小笠原にある音楽の特徴を考える(小笠原学習)</p> <p>①これまでに接してきた小笠原固有の音楽や芸能の特徴や歴史について、身近な人に話を聞いたり調べたりしてまとめ、理解を深める。</p> <p>②調べたテーマを発表し、小笠原地域全体の音楽文化について分かったことを整理する。</p> <p>2 音楽の特徴と地域の背景との関わりについて理解する</p> <p>①江戸木遣、南部牛追い歌、ソーラン節、谷茶目を鑑賞し、音色やリズム、旋律、形式を知覚しながらそれぞれの音楽の良さを味わう。</p> <p>(○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)小笠原の郷土音楽について、歴史や背景に関心をもって調べ学習を行う。</p> <p>△(対話的)地域の人から聞いた話や調べたことを共有し、小笠原音楽の全体像をつかむ。</p> <p>□(深い学び)日本各地の民謡について、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりの意見をまとめる。</p>				系単元性の	<p>「わかる」から「できる」授業への工夫</p> <p>①各地の民謡は知らないものが多く、それぞれの印象を述べるだけになってしまいがちである。</p> <p>②郷土小笠原の音楽については、自分が体験したことのあるもの以外は深く知る機会が少ない生徒もいる。</p>					
2	3	<p>①それぞれの音楽の特徴を捉えたとともに、リズムや旋律の特徴を地域の地理的・歴史的背景から関連性をもって検証させる。</p> <p>②自分がよく知る音楽を手がかりに、クラスで調べたことを共有して理解を深める。</p>				系単元性の	<p>①それぞれの音楽の特徴を捉えたとともに、リズムや旋律の特徴を地域の地理的・歴史的背景から関連性をもって検証させる。</p> <p>②自分がよく知る音楽を手がかりに、クラスで調べたことを共有して理解を深める。</p>					
評価規準												
知識・技能		<p>曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>各地の民謡の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>			思考・表現判断		<p>各地の民謡の旋律やリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えたとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>		主体的に学習に取り組む態度		<p>各地の民謡に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p> <p>・観察</p>	